



② 16:30 ~ 17:00 pm



③ 6:00 am



⑤ 6:40 pm

R

岩屋岩跡遺跡巨石群



岐阜県指定文化財 (昭和44年)
【岩屋岩跡遺跡】縄文時代の史跡
ここに縄文時代のヒト集合施設が残ります

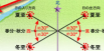


さらに！ 寺と神社の境
岩屋岩跡跡内へ射し込む
スポット光の照射によって
3000年の軌跡が見えます
[詳細資料を]

太陽軌跡に合った立地条件

3つある巨石群のうち2つは
互いの中心が互い
の反対側に位置しています

冬冬の
日の入方向



いかりの石
岩屋岩跡遺跡
巨石群

- ① 冬至の頃の軌跡
- ② 春分/秋分の頃
(赤い太陽光)の軌跡

N35°45' E132°09'
標高約355m

金山巨石群は
3つの巨石群の総称です

夏夏の
日の出方向



東の山巨石群

- ③ 冬至の頃
(赤い太陽光)の軌跡

標高約560m

んこく
鎮刻石のある
巨石群

- ④ 夏至の頃の軌跡
- ⑤ 春分/秋分の頃
(赤い太陽光)の軌跡

※ 鎮刻石とは
夏の赤い太陽光の軌跡
を刻いている。これは古代
の石に刻ける太陽光の
方位角を測るための
重要な証と
考えられています。 4本の
最大の
刻石

夏至の頃
11:40am

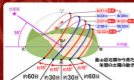
3つの特殊な刻石

夏至の頃
11:40am

2本の
刻石

「遺跡」下の空間へ
射し込むスポット光の影

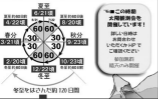
「2本の刻石」下に
平石に彫り込まれた
深い溝へ射し込む光



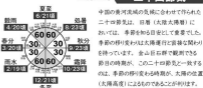
金山巨石群では
次のような節日の時刻を観測できます

巨石群配列やその構造と太陽運行との関係から、夏至から冬至までの太陽軌跡を4等分した節日の時刻を知ることができます。これは中国(黄河流域)の気候に合わせて作られた二十四節気の節日の時刻や、エジプトにあるゾグのメギピラミッドや、アブ・シンベル神殿と同等の太陽光の軌跡と共通点が決ります。(裏面参照)

金山巨石群で観測できる節目の時期



二十四節気



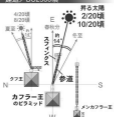
エジプト遺跡との共通性

冬至を以てした約120日間



ギザの三大ピラミッド

建造/BC2500頃

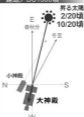


「このタフのピラミッドの東側の基部の中心の点から、東南方向に対し、北側に約45度傾いてのびる道がつけられている。また、真ん中のカフラーのピラミッドの東側の旗から、今度は東西南方向に対し南側に約10度傾いてのびる道がある。」

「『石文時代の謎を解き明かす』 松本和雄 著 小学館 2001
この方向は、夏至と秋分の日の出方向の中間に当たります。この方向からは、10月20日頃(冬至約60日前)と2月20日頃(冬至約60日後)の太陽が地平線から昇ることになります。」

アブ・シンベル神殿

建造/BC1300頃



エジプト南部ナイル川上流にあるアブ・シンベル大神殿は紀元前1300年頃ラムセス2世が建造した。制が数回990mの高の岩壁に彫る4体の像を彫り出す日があります。それが年2回、10月20日頃と2月20日頃起こることです。更に隣接する小神殿は、0分-ホーネンズの前へよると、冬至の日昇と整列していることが判ります。

古代エジプト太陽暦



「ギザのピラミッド」と「アブ・シンベル神殿」の両方から読み取ることができる10月20日頃から2月20日頃までの冬至を以てした約120日の期間に、夏至の頃を新年として1年を3期に分けたエジプトの古代太陽暦の、暦理成長期に該当します。



★教材・高等学校 世界史用カラー資料集『図説 世界史(平成20年)』教育図書出版 集英館社 掲載記事より

P.4 序章 世界史への扉1 / 暦の歴史/コラム

日本における古代太陽観測の証し - 金山巨石群と太陽暦 -

金山巨石群(岐阜県下呂市金山町 推定2500年前)は「岩基岩層遺跡石群」「鐘刻石のある石群」「東の山巨石群」からなる。いずれも同じような観測方法により太陽運行を捉え、各節目の時期を知るための観測台の役割を持つ。また、太陽高度と年間日数との関係により周年を知るための石組みも存在している。これらの巨石群の中で、唯一記号表現を持つのが「鐘刻石のある石群」である。夏至の頃の太陽軌跡の方位と高度が2本の鐘刻に刻まれている。巨石群内に射し込む太陽の光の影とサイズが3つの鐘刻の痕跡に刻まれた可能性が高いとされている。この資料(表面 鐘刻石 参照) といった研究成果や、周辺地域(甲斐郡・乙原・八坂)に8000年前からの住居跡や石構や土器などが多数出土していることから、金山巨石群が太陽暦として機能し利用されていたと考えられている。

★教材・小学校4年生 理科『合格自在 理科4上(平成21年)』『PERSPECTIVE(平成27年)』新学習研究社 掲載記事より

P.64 太陽の動きのひみつ/②太陽の1年の動き ← P.76 太陽の1日の動きと気温の変化(1)/②太陽の1年の動き

右の写真(この資料(表面)上の写真②)は、岐阜県の金山巨石群という遺跡にあるものです。ここでは、人工的に配置されたと考えられるたくさんの石があり、春分・秋分の日、夏至の日、冬至の日など、特定の日に石のすきまから太陽の光が差し込むことがわかった。古代において、太陽の動きをもとにした季節の観測が行われていた可能性を示す例です。季節を正確に知る(カレンダーをつくる)ことは、作物を植える時期を知り、しゅうとを得るため、今も昔も大変重要なことなのです。【写真②の説明】春分・秋分のころの山へしむる太陽を指す巨石群(太陽が写真より右側へしむるころは夏の時期、左側へしむるころは冬の時期)

ガイド予約
その他
お問い合わせ

金山町観光協会 岐阜県下呂市金山町大船渡 679-1 TEL 080-3637-2201
金山巨石群調査資料室 岐阜県下呂市金山町金山 2974-16 GALLERY OKURU TEL 0576-34-0073
ガイド予約ご希望の方は、「光の体験ツアー」がおすすです。詳しくはお問合わせください。

<http://www.seiryu.ne.jp/~kankou-kanayama/kyoseki/>

ガイドブック販売中! 『金山巨石群の「観光」太陽観測ガイド』小林由美・渡田新樹 著 / 三五館 / 2016年